

令和4年1月26日

東海旅客鉄道株式会社

代表取締役副社長 宇野 護 様

静岡県中央新幹線対策本部長

静岡県副知事 難波 喬司

リニア中央新幹線静岡工区有識者会議「大井川水資源問題に関する中間報告」の概要と県の見解等の送付について

貴社への助言・指導を目的とする「リニア中央新幹線静岡工区有識者会議（以下「有識者会議」という。）」において、1年8か月の助言・指導、議論の内容を総括する、「大井川水資源問題に関する中間報告（以下「中間報告」という。）」が取りまとめられました。このことにより、大井川水資源問題について、県の地質構造・水資源専門部会で対話を再開する下地ができたものと受け止めております。

県は、1月20日に、大井川利水関係協議会を開催し、利水関係者及び流域8市2町の首長等に対し、「有識者会議中間報告の概要と県の見解について(案)」及び「中間報告について【県の認識・見解】(案)」を説明しました。その後、各団体からの意見を踏まえ、流域市町や利水団体を含む静岡県としての中間報告についての認識・見解としてとりまとめましたので、別添のとおり送付します。

中間報告では、多くの新たな知見が示されましたが、工事中のトンネル湧水の全量の戻し方について解決策が示されておらず、水温を含む水質への影響、発生土の処理方法などについても議論が十分に行われていません。また、生態系への影響については、有識者会議では、地下水位が300m以上低下する解析結果が示されましたが、それ以上の議論はなく、県の生物多様性専門部会でも、貴社から生態系への影響の適切な回避・低減策は示されていません。

これらのことから、静岡県及び流域市町、利水団体として、「現状では、南アルプストンネル工事は認めることのできる状況にはない」と認識が一致しました。令和3年3月20日に流域8市2町首長が要望した「流域住民の理解と協力が得られることなく、トンネル掘削工事に着工してはなら

ないこと」に対し、令和3年4月15日、金子社長から「トンネル掘削工事着工には流域の皆様のご理解とご協力を頂くことが前提と考えております。」と回答があったように流域住民との約束でありますので、貴社におかれましては、南アルプストンネル工事に着手できない状況であることを十分認識するようお願いいたします。

また、再開する県地質構造・水資源専門部会での対話において、トンネル工事に伴う水資源利用に関しての地域の不安や懸念を払拭するよう真摯な対応をお願いいたします。

静岡県は、これまで、貴社の説明が流域住民を始めとする県民の理解が得られるものとなるよう、専門部会の円滑かつ迅速な開催に努めてきており、今後もそれに努めてまいります。

また、国土交通省に対しては、生物多様性の問題についての積極的な関与と今後の有識者会議の開催計画をお示しいただくようお願いしております。

貴社におかれましても、中間報告を受けた地質構造・水資源専門部会での議論の促進と生態系についての有識者会議の早期開催のため、トンネル湧水の全量戻しの具体的方策や生態系への影響の適切な回避・低減策などを速やかに示していただくようお願いいたします。

以上